

ノネズミの生息数調査法について

問 新しく森林保護を担当することになりました。現在行われているノネズミの生息調査法をお知らせ下さい。
 (旭川市 S 生)

答 ノネズミ防除の立場からお話しします。ネズミの数とその林木被害はおおむね比例していますから、ネズミ数を把握して、それに合った防除をすることが肝要です。

ネズミの数を調べることは調査地えらびから始まります。木をかじるネズミはエゾヤチネズミですから、エゾヤチネズミの生息状況が正しく把握できる調査地をえらばなければなりません。それにはエゾヤチネズミの比較的多い植栽後2~3年以降の造林地やU字沢、下草やササの多い天然林などのなかから、候補地を数カ所えらび、簡易調査(後述)を行い、数の多い所をえらぶのがもっともよいでしょう。

調査地が決まりましたら、次にわなをかけます。わなは普通パチンコと呼んでいるはじきわなかパンチュウトラップを用意します。わなの配列は10m間隔の碁盤目状に5列10行の計50のわな点を決め、それを中心に半径1mくらいの範囲のネズミのかかりそうな所(図)に1個ずつ、計50個のわなを置きます。わな点にはテープで目印をつけると、わなをさがすのが楽です。毎回、同じ調査地を使う場合には杭を立てておくのもよいでしょう。捕獲は3日間続けます。わなをかける日がありますから、作業は合計4日間かかります。餌づけ(わなに餌だけをつけて、わなをかけずにおき、ネズミに餌だけ食べさせてわなにならずこと)は以前行なわれていましたが、これはやらなくてよいでしょう。わなは毎日見回り、かかったネズミを集め、食べられた餌はとりかえ、からはじきは再びかけ直します。見回りはできるだけ朝早く行って下さい。かかったネズミは種類を見分けて、数を記録します。北海道では6、8、10月の各月上旬にこのような調査が行われていますので、同時期に調べる方が比較する上にも好都合です。

生息数は発生予察事業では「0.5haあたり3日間の捕獲合計数」で表わします。杉山式直線図解法やジピン法などの推定生息数にくらべ、捕獲合計数は若干少な目の数になりますが、実用的には大差ないといえます。

ネズミ調査にはそのほか簡易調査といって、わな点を線状に10m間隔で10カ所とり、各わな点にわなを2個ずつおいて2日間捕獲(作業日数は3日間)を行う方法があります。この調査は1haあたり何頭といったことはわかりませんが、ネズミが多いか少ないか見当をつけるのに役立ちます。碁盤目状にわなをおいた方形区調査を補ったり、殺そ剤散布後に生き残りや周りからの侵入によって林地にどれ程のネズミがいるかをおおまかにみる場合に使えます。(昆虫野兎鼠科 中田圭亮)



エゾヤチネズミの住み場所と通路
 (「野ネズミ調査の手引より」)